

翻刻

『忘算竊記』における小津久足の本草問答

菱岡憲司

京都にて学塾・読書室を主宰した山本亡羊(一七七八〜一八五九)のもとには、門人を中心に本草に関する質問が多数寄せられた。西尾市岩瀬文庫所蔵『忘算竊記』(三十八冊。天保二年〜文久元年成。五五一一)は、亡羊の息榕室(二八〇九〜一八六四)編の雑纂であり、そのなかには、本草に関する質問とそれに対する回答の記録が残る。このうち、伊勢出身門人とのやりとりについては、小玉道明「平安読書室伊勢出身門人らの本草物産問答」(『三重の古文化』一〇五、二〇二〇)に詳しい。

この度、翻刻紹介するのは、『忘算竊記』に見出せる小津久足関連の記述である。小津久足(与右衛門・桂窓、一八〇四〜一八五八)の質問は、同書の嘉永六年(二十八冊目)・同七年(同)・安政三年(三十五冊目)の記録に見出せ、久足の書簡をそのまま貼付したものと、榕室が概要を筆録したものとがある。久足は亡羊の門人ではないものの、嘉永初年頃より読書室との関係を深めており、後には、伊勢相可の西村広休(二八一六〜一八八九)を中心として、読書室門下、また門下でなくとも関係の深い本草愛好家がグループを形成して、読書室とのつながりを持つようになった。その詳細は拙稿「小津久足と平安読書室―翻刻・山本榕室書簡―」(『鈴屋学会報』二二、二〇二二)を参照されたい。

凡例

- 一、西尾市岩瀬文庫所蔵『忘算竊記』(五五一一)のなかに見出せる小津与右衛門(久足)関連の記述を翻刻した。
- 一、記載順に通し番号を振り、【一】で『忘算竊記』の冊・丁を示した。
- 一、読解の便宜を考慮して、適宜、句読点・濁点・括弧を施した。
- 一、漢字は常用漢字を原則として通行の字体を用いた。

- 一、原本の配置にかかわらず、回答部分を二字下げとした。
- 一、本文に誤りが認められる場合も原文のままとし、当該文字右脇に()を用いて注記した。

嘉永六年(一八五三)

1【28冊目、60丁裏〜61丁表】

小津与右衛門 錫夫

瑪瑙髓・木化瑪瑙。右ハ和産ノモノニ候ヤ。奇品カ、沢山有之候物カ。

瑪瑙髓・木化瑪瑙共、和産也。東北国ノ寒地ヨリ出。

石緑。右ハ絵具ニ遣ヒ候緑青トハ違候ヤ、同物ニ候ヤ。入御覧候ハ、聊カキ候

テ御目ニカケ候事ニ候。余程大ナル石、手ニ入申候。是モ和産ノモノニ候ヤ。奇品カ、沢山有之候ものカ。

石緑。和名、岩緑青。画料ニ用フ。上品ノモノヲ孔雀石ト云。出羽阿仁ヨ

リ出。漢名、蝦蟇背。石緑共ニ銅山ヨリ出。

鶯草ト俗ニ申候草ハ、本名有之候ものカ。正月頃咲物候より、插花家之書ニ相

見ヘ難解候。御地ナドニテハ、俗ニ何と唱候ものカ承り度候。

鶯草。正月ニ開クモノ、插花家ニ用フルトコロ何ナルカシラズ。一抛御示

所願也。ウグヒス草ト云モノ、ツル立ニシテ、二三月、深碧五弁ノ花ヲ

ヒラキ、愛スベキモノアリ。又ホタルカヅラ、又ルリサウト云。漢名ナシ。

紀府御蔵『百花図』ニ「翠梅草」ト題セルヨシ。小原桃洞ノ『桃洞遺筆』

二図ヲ載タリ。

安政元年(嘉永七年、一八五四)

2 【28冊目、84丁表、84丁裏】

小津与右衛門 錫夫

信州小泉郡武石村、武石ト云モノ、信州ヨリ到来。トント訳ガ分リ不申候。薬物カ奇品ト申処、其訳御示シ可被下候。

自然銅。和名、切子。『石本草』ニ出、接骨ノ果也。此ニ類スルモノ金牙石・銚石ノ二品御座候。

3 【28冊目、252丁表】

小津与右衛門

錫夫

(小津書簡貼付)

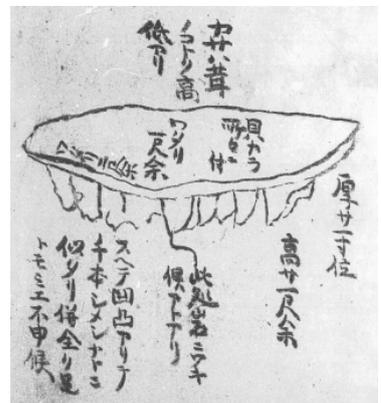
「蟹菊ト申一種之もの有之候哉。外より被相尋候付、例之不顧御面倒伺申候。」

蟹菊と申物、一向不弁候。

4 【28冊目、269丁表、271丁表】

小津与右衛門 錫夫

此度箱ニ入、御鑑定願候品ハ、此程、南勢紀州堺ニテ、髓柄浦ト申所ニテ網ニカ、リ、二十尋ノ海底ヨリアガリ申候由申ま、魚商人持来候。大サ如図ニ候。靈芝・万年タケ、又ハ猿ノコシカケト俗ニ申モノニ甚似ヨリ候。其マ、御目ニカケ申度候へ共、カサハリ心ニ不任。依之少々計切取、入御覽候。若奇品ニ候ハ、重テ物産御会ノ節、出し可申候。床ノ置物ナドニ至極恰好宜シキモノニ御座候。



カサハ茸ノゴトク高低アリ。貝ガラ所々ニ付。ワタリ一尺余。ワタリ二尺余。厚サ一寸位。高サ一尺余。此所岩ニツキ候アトアリ。スベテ凹凸アリテ千本シメジナドニ似タリ。併全ク足トモミエ不申候。

俗二人參ト申野菜、是ハ漢名何ト申モノニ相当リ候ヤ。

サルトリイバラト申、黄ナル花サキ候モノ、此木ノ虫ヲ瘡ニヨロシキト申事ニテ、当辺ニテハ専小兒ニクハセ候。是ハ漢名何ト申モノニテ御座候ヤ。『拾遺和歌集』「物名」ノ題ニ「サルトリノ花」ト申ハ、此コトト奉存候。或ル俗説ニ、サルトリイバラハ黄ナル花サク木トハ別ナリト申候。不分明ニ御座候。孩兒菊ト申候モノ、俗ニ何ト申モノ、漢名モ有之候モノニ候ヤ。

淡路国松帆浦松カサ、俗ニチヅリト申、薰物ニ相成候由、『閑田文集』ニ相見ヘ候。右ハ是マデ御覽モ被成候物カ承タク候。

答。蟹ト菊ト二物ト存ラレ候。先次ノ答。

南勢髓柄浦ノ異物、無名ノ物、今マデ属目セシコトモナシ。稀品ナリ。海中ニハ石芝・石梅ノ類、人間所在ノ物ノ形ニ類シ、名状スベカラザルモノ甚多シ。コレナド切口ヲ以テミレバ、塩気水沫ノ凝結シテナルトコロ也。珍蔵ナサルベク候。塩気ノヌキ様、御考アルベク、日ヲヘテ点黒ニナリヤスク候。

菜ノ類、ニンジント云モノ、胡蘿蔔ナリ。本名、ナニンジン、略シテ、ニンジント云。人參ト菜ト貴ブキモノユヘ、冒名候モノ甚多シ。小兒疳疾ニ用フル、サルトリイバラノ虫ハ、雲実ナリ。『本草』「毒草」ニ収ム。ソノ蔓ノ蠹虫ヲ用フルコト也。『拾遺』「物名」ノ「サルトリノ花」ハ、菝葜。俗ニ、和ノサンキライナド、云物ノコトノ由承リ候。又此ノ雲実、古歌ニハ、カハラブシトカ詠ゼリ。皂莢ノ字ニ、コノ訓ヲ用タルハ誤ナリ。雲実ナリ。

孩児菊ハ蘭草。フヂバカマノ一名。又沢蘭。サハヒヨドリヲモ云。推出シテ孩児菊ト云ハ、沢蘭ノ方也。
松毬ノ薫物ニ相成候コト、蒿蹊大人ノ筆記ノ由、実否ヲシラズ。

5 【28冊目、282丁裏〜283丁表】

小津与右衛門 錫夫答
蜀葵と申ハ、俗ニ草葵トモ、花アフヒトモ申、色々ト花咲候もの、あたり候ヤ。黄蜀葵と申ハ、俗ニ、トロ、ト申、黄ナル花咲候ものハ、秋葵と申がよろしく候ヤ。鮮答と申ものハ、牛馬ニ限り候ものニヤ。
禹余糧ト太一余糧ハ、同品ニ御座候ヤ。別品ニ御座候ヤ。

葵。カンアフヒ。至テ小花不足。散モノ葉くらべし、二品、薬用ノ冬葵ト、岡ノリトテ、葉青ノリニ代モノトアリ。蜀葵。花アフヒ、タチアフヒト云。高サ丈ニスグ。花五色アリ。銭葵。ゼニアフヒ。花銭ノ大ノモノ也。
秋葵。一名、黄蜀葵。二種アリ。小葉ヲ、トロ、ト云。紙ノ粘ニ用ユ。大葉ハ花ヲ賞。俗名甚多し。画ニカクモノ也。
鮮答ハ馬ニ充。諸獸ミナアリ、獸ニヨリテ名ヲ異ニス。通ジテ鮮答ト云。禹余糧ハ、外皮褐色ニシテ滑ナリ。大乙余糧ハ、和州生駒ニ多シ。小石ヲツクネタル如キモノ也。

6 【28冊目、287丁裏〜288丁表】

小津与右衛門 錫夫
(小津書簡貼付)
「一、花鳥之事、大体ハ相分り申候得共、相分り不申候も多中ニも小ぶくら
と申もの相分り不申候。右ハ花ハいつ頃咲候ものニ候哉。実ハいつ頃熟し候もの哉。承り度候。四季之順ニ帖ニはり申度、伺申候。

拙老婆 硃頂紅

文貴鳥 鸚鵡(マ)
三光鳥 沈香鳥
右ハ俗名何と申ものニ候哉。鳥屋などニ有之候ものか。是等も承り度候。溪藤 花アヤメ・花菖蒲トハ違候哉。当辺ニテ、ドンド花ト申ものニよく似より候。 田人ト書

白黄百合 サ、ユリトハ違候哉。
瑪理花 紫陽花トハ違候哉。
杜衡 細辛トハ違候哉。
桑雁 班鳩トハ違候哉。
黄雀 カナリヤトハ違候哉。
猶近々ニ伺可申候。

コブクラ。冬青ノ一種也。四月頃葉間ニ花アリ。ミルニタラズ。
拙老婆。ノゴドリ。ノゴマ。
文貴鳥。唐鳥也。唐鳥ナレドモ唐ノ書ニミエズ。俗名ナラン。
沈香鳥。同上。
硃頂紅。ベニヒハ。古名、カシラ。今鳥戸ニテ、カシラト云モノハ別鳥ナリ。鸚鵡。ハ、テウ。唐鳥ナリ。『春秋』ニ「有(鸚鵡)来巢」ト「昭公」ノ処ニアリ。溪藤。ハナアヤメ。只アヤメトモ云。
白黄ユリ。和名也。
瑪理花。アヂサキ。紫陽花ニ充ルハ非ナリ。
杜衡。カンアフヒ。俗ニ細辛ト云ハ非也。『博物志』ニモ杜衡乱細辛。古ヨリ在リ。

桑雁。マメドリ。マメマワシ。斑鳩ハ、ジユズカケバト也。斑鳩ノ古訓非也。斑鳩、和名トミルベシ。
黄雀。カナリーヤ。黄雀、同名アリ。

安政三年(一八五六)

7 【35冊目、20丁表〜20丁裏】

小津与右衛門問。榕室答。紅毛持渡之品、蛇木と唱候。

漢人ニ質問せしニ、蛇紫トモ蛇枝トモ答候。先、漢名之様申習候。解毒之効有之候由、別シテ蛇毒ニ効ありト申候。如此巨ク長キ品ハ、私モ始見ニ御座候。大切ニ可被成候。世ニ蛇木ト申、床柱又茶室ニ用候モノ、琉球蛇木ニテ、杪^{ヘゴ}ノ木心ニテ真ニアラズ。又、木皮鱗之如モノも蛇木ト申。此ハ似寄ノ物、尤賈物之甚モノニ候。真ノ蛇木ハ中心ニ菊座ノ紋有之候処、他木ニ異トコロト存じ候

8 【35冊目、55丁表〜58丁表】

小津与右衛門

(小津書簡貼付)

「木犀。金ト銀ト有之、金之方多年識候ニ、年ニより二度花咲候事、五六年メニ有之候。是ハ始花咲、散候而、十五六日モ過ギ、又咲候事ニ御座候。右ハ御識モ有之候哉。不審之事共同申候。

山田志毛井、病人之儀、御蔭ニ而大ニこゝろよく候。此頃時候かはり之故か、又ハ病症ニより候事か、夜中下腹いたみ候事有之、いたみ不申時ハ、むね江さしこみ之気味有之候。右御加減之御葉并ニ御方書共、此度願申候。以上

一、うら榊之事云々被仰下、フトニ敷候事、始而承り候。フト・マガリなどハ『和名抄』ニも慥相見え候。至極古キ形ニ御座候。尤住吉ニハ神供ニし候事、爾ト承り候。其外神社ニも有之候半、仁和寺ニ而、仏前ニ供候を見請候事も御座候。

一、此貝花生、何ト申貝ニ候哉。すぐニ箱書付被成下候様、願申候。其名相分り不申候ハ、其ま、箱之裏へ御記し可被下候。此頃手ニ入、花生ニ至極よろしく候故、箱をこしらへ、御染筆を態々願申候。已上

期近便候。恐惶謹言

小津与右衛門

木犀。一名、桂花。白キヲ銀桂ト云。初白ク、将落ニ及テ黄色ナルヲ金桂ト云。葉ウスク光アリ。花卉大ニシテ厚シ。金桂同様、ハジメヨリ、丹色、

アカ、黄ナルモノ、丹桂ト云。不断サクモノ、日桂ト云。又葉ニキレコミアリテ、ヒイラギノ如キモノ、ヒラキ木犀ト云。

令愛ノ御病状、血氣ノ刺痛ト存候。左ノ方調進ス。

『和剂局方』

烏沈湯

治諸氣諸痛及婦人血氣攻撃心腹刺痛者、云々。

烏葉・沈香・人參・甘草・生姜、右五味。

加減、香附子・艾葉・延胡索。

伏兔ノコト、当地神社、松尾ハジメ、禁中ノ供御ニモ用タリ。ダンゴノ油アゲ也。サカキ・シキミノ葉ヲ入タルハ、余モ始見也。

琉産、狗頭螺。和名、竜宮ノ冠貝。『百品考』ニモノセタリ。

9 【35冊目、62丁裏〜64丁表】

小津与右衛門

(小津書簡貼付)

「『地錦抄』ニハ

るうだ 葉ほそくながく蓼のごとし。青木植レバ後たねいらす多く生じて、毒

虫のさしたるニよし。腫毒ニよし。時疫のはやりし時、門に釣てよし。

ほうそうしきりに痒とき、此草潰せんじ、痘瘡ニぬりてよし。甚妙也。

俗ニ麝香草ト云有ル。此るうだと違ひ候哉。

けくさ

俗人云。此草、耆婆三礼草ト云。マムシニサ、レタルニ妙也。又吸出しニ

も成ルト云。

又或人、耆婆草ハ朝鮮朝顔ニ而

(山本榕室筆)「中里嘉三郎。松阪」

耆婆三礼草ハ、ルウダサウト、大葉鱧腸ト、金瘡小草ト、三物同名也。ルウダサウ。『地錦抄』ニ云如シ。元紅毛種也。書ニ挟テ蠹ヲサケ、虫螫

ニツケテ痛ヲトミムル功アリ。

大ノ方

麝草。ジャカウサウ。即零陵香也。

小ノ方

イブキノジャカウサウ也。

貴重な資料の閲覧・翻刻をご許可いただきました西尾市岩瀬文庫に
深く御礼申し上げます。なお、本稿はJSPS科学研究費助成事業
(19K00300, 19H01293)による研究成果の一部である。

(日本文化論)

Ozu Hisatari's Question and Answer about the natural objects found in "BOHEISEKKI"

HISHIOKA Kenji (Japanese culture)

Introduces and reprints descriptions related to Ozu Hisatari found in the "BOHEISEKKI"(Books about natural objects) in the collection of Iwase Bunko, Nishio City.